

## 思い耽る秋 (2012.11.1)

夏と冬の堺目があまりにも近すぎて、戸惑ってしまいそうなこの節変わりです。10月末の日曜日に時間が取れたので、中学に入り9ヶ月だけを過ごした栗駒をたずねました。

地元で農業に励んでいる友人がいて、何回か誘われた末のドライブでした。

紅葉をと、わざわざ秋の宮方面より山越えをしたのですが、例年のように鮮やかな紅葉では有りませんでした。

栗駒の友人はリンゴやブドウそしてアケビなど様々なものを育てて楽しんでいる様でした。

市場には出さないで、自分たちの人生を楽しむのだとも言っていました。

90歳になるご両親の面倒を看ているので、泊まりがけの遠出はしないようで、大地に溶け込み家族を守るという思いが滲み出ていて、頼もしくさえ感じました。

大学の後輩であり、小生が尾花沢に住み着くことでの多大な助言とお力添えを戴いた鈴木先生が先月亡くなられました。

不治の病を密かになさってこの三月まで、診療を続けられたことに対して心よりの尊敬の念を抱きましたし、長いことお疲れさまでしたと申し上げます。

どうぞゆっくりとお休み下さい。

現職では、とうとう年長者になってしまいました。

少しでも皆さまのお役にたてるよう健康には人一倍気を配らねばならないようです。

これから10年間は高齢者の増える年月で、そのあとはなだらかに少なくなっていくそうです。

全ての方の病院での看取りは難しくなりそうで、このところ医師だけでなく、医療担当の看護師や歯科医師、薬剤師そして栄養士までを含んで、更には介護担当のケアマネージャー、介護士、訪問介護ステーション等々、多職種の出陣者が一堂に会して、医療や介護をスムーズに進めるかを議論しているところです。

医療の場合は、医療機関から退院する時からの支援になり、一方、介護施設に入らない方や自宅介護希望の方などが関わってくるわけで、両方が必要な場合は双方から支えるわけです。

幸い尾花沢大石田地区は、施設が他の地区より多いようで少しは安心かもしれませんが、油断はできません。

家族の間でも、時にはこのような事を炬燵（こたつ）で話しながら、秋の夜長を過ごしてみても如何ですか？